

本日2022年11月1日、JR東労組の若手組合員に徹底して嫌がらせを行い、組合を脱退させ、最終的にはJR東日本を退職させたとして、同労組役員らが「強要罪」で逮捕されてから20年が経過した。同事件は「浦和電車区事件」と呼ばれ、極左暴力集団である「革マル派」が相当程度浸透しているとされているJR総連・JR東労組が、内部に敵を作り徹底して攻撃するといういわゆる「積極攻撃型組織防衛」を実践し、それが白日の下にさらされた有名な事件である。

しかしながら当時から20年が経過する中、組織の内外で真実を知らない方も増えていることから、この区切りに同事件やJR総連の組織について、複数回にわたる形で振り返ってみたい。

「浦和電車区事件」加害者逮捕から20年 ～JR東労組役員による脱退・退職強要事件～



執拗な嫌がらせが始まった2001年当時、JR東日本「浦和電車区」に所属し、JR東労組の若手組合員であった運転士（当時27歳）は、同労組の活動に非協力的であったことやJR連合の組合員と交流したこと等を理由に、同労組の大宮地方本部や浦和電車区分会等の役員から「組織破壊者」とレッテルを貼られた。そのうえで2001年1月頃から職場で糾弾・恫喝され、同労組を脱退することとなり、最終的には2001年7月、JR東日本の退職にまで追い込まれた。

本件の加害者であった役員ら7人は2002年11月1日に逮捕され、同月内に起訴された。その後、裁判で有罪が確定した2007年には、当時社員籍があった6人がJR東日本を懲戒解雇された。2012年には刑事訴訟として「強要罪」の有罪判決が確定したものの、JR総連・JR東労組は未だにこの事件を「えん罪」であると主張し続けている。

※詳細はJR連合HP (<http://www.jr-rengo.jp/minshuka/urawa.html>/QRコード) を参照のこと
本年6月のJR総連・JR東労組定期大会のスローガンにもこの主張が盛り込まれている。

■ JR総連「第38回定期大会」（2022.06.06）におけるサブスローガン

一、**えん罪・JR浦和電車区事件から20年**。JR総連運動のさらなる強化を通じて、JR総連・各単組に対する一切の敵対・妨害を許さず、職場から組織強化・拡大のたたかいを推し進めよう！

■ JR東労組「第41回定期大会」（2022.06.21）におけるスローガン

1. JR東労組結成35年！「**えん罪・JR浦和電車区事件**」を美世志会と共にたたかい抜いた20年！「抵抗とヒューマニズム」の精神を基軸に、いかなるテロにも戦争にも反対し、憲法9条を守り戦争の内平和で安心して暮らせる社会の実現をめざそう！

ちなみに、解雇された役員らはスローガンにも記載がある「美世志会」（未決拘留日数が344日間だったことにちなんでいる）を組織のうえ、同事件を「えん罪」であると訴える活動を開始し、さらにはJR総連・JR東労組に雇用され、専従役員として働くこととなった。JR総連には未だその役員が残っており、本年7月にはJR東労組の機関紙「緑の風（第738号）」へ、「えん罪・JR浦和電車区事件から20年 組織を守り抜いた教訓を振り返り、組織強化・拡大につなげよう！」との文章を投稿し、JR総連・JR東労組への総結集を訴えている。

組合員を守らない労組が今さら組織強化とは笑止千万！ まずは復職した元運転士への謝罪が先ではないのか！

前述の「緑の風」への投稿では、「脱退や退職はあくまで本人意思であり、退職は会社判断」という旨の記述がある。加害者らの行為が被害者に及ぼした影響を一切度外視しており、その感覚にあらためて驚かされる。ここから、自らの意に沿わない人間は徹底的に攻撃し、排除するという「積極攻撃型組織防衛論」を地で行くJR総連・JR東労組の組織性が見て取れる。

ちなみに元運転士はJR東日本に復職することができ、今はJR連合の組合員として業務に励んでいる。JR総連・JR東労組は、スローガンで「ヒューマニズム」などと標榜するのなら、「えん罪」などと自分たちに都合の良い主張を行う前に本人に謝罪すべきだ。